

第7章 現職研修

教員としての資質能力を高めるための研修を推進する。

校（園）内研修

1 学校（園）の教育目標の実現を目指す効果的な研修計画を作成する。

- (1) 学校（園）の教育目標の実現を目指す組織的、計画的な研修の推進
 - ア 幼児児童生徒の実態や地域の特色を踏まえ、各学校（園）が直面している課題を明確にして、具体性のある研修主題を設定する。
 - イ 研修が日常的、継続的に行われるよう、研修の内容や方法等を具体的に明示した研修計画を作成する。
 - ウ 学校（園）の実情に応じて学年、教科、その他の部会構成を工夫するとともに、各部会の連絡を密にした機能的な研修体制を整備する。管理職や各種主任は、研修が深まるようにリーダーシップを発揮する。
 - エ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についての研修を計画的に推進する。
 - オ キャリアステージに応じた教員の資質能力の向上のために、関係機関等との連携を深め、指導力を高めたり、得意分野を伸ばしたりする研修の充実を図る。
- (2) 全校体制で取り組む校（園）内研修の推進
 - ア 教育委員会が実施する年次研修等の校外研修を校内研修と関連付け、その意義や成果を共有し、学び続ける意識をもつ。
 - イ 日頃から自由に意見を言い合える職場の雰囲気づくりに努め、OJTを通じて日常的に学び合う研修の充実を図る。

OJT

2 内容や方法を工夫し、実践的な指導力を高める研修を進める。

- (1) 教員としての専門性を高める研修内容の充実
 - ア 自律的に学ぶ姿勢をもち、教科や教職に関する専門的な知識や技能を高める研修に努める。
 - イ 学級経営や生徒指導等に関する事例研究及び実技研修を積極的に行い、指導の改善に努める。
 - ウ 特別支援、人権、福祉、国際理解、情報、環境、いじめ、不登校等、現代的な諸課題や学校教育課題に関する研修の機会を設ける。
 - エ 危機管理マニュアルを基に、想定される学校（園）事故への訓練や研修を行い、適切な対応策を評価・検証し、危機管理意識を高める。
 - オ カリキュラム・マネジメントに関する研修を通して、保護者や地域との連携を深めるなど「チーム学校」を支える一員としての力量を高める。
 - カ 個人研修や他校（園）及び関係機関における研究の成果について、関係機関が発行する資料や各種研究情報を活用して学び合う機会をもち、校（園）内研修の活性化に生かす。
- (2) 実践的な指導力を高める研修方法の工夫・改善
 - ア 幼稚園・保育所・認定こども園、小学校、中学校等間で合同研修会等を開催し、協議や情報交換を積極的に行い、幼児児童生徒の理解や指導の仕方について研修を深める。
 - イ 全国学力・学習状況調査等の結果を分析するなど、児童生徒の実態を捉え、指導方法を振り返ったり、授業での変容を捉えたりして、日頃から授業改善に努める。
 - ウ 互見授業の機会を定期的に設けたり、教員間で自由に授業を参観したりするなど、研修する場を設定して、学習の展開や指導方法を工夫・改善する。
 - エ 授業リフレクションの考え方に基づくフリーカード法等のワークショップの形式を取り入れるなど、研修方法を工夫する。また、研修を週時程表に位置付けるなど、研修の進め方を工夫する。
 - オ 優れた指導実践を参観したり映像資料を見たりする機会を設定し、一人一人の教員の指導力を高める。

チーム学校

互見授業

3 日々の教育活動に生かす評価を行い、研修の改善を図る。

- (1) 研修が教員の指導力を高め、学校（園）の教育目標の実現に向けた日々の教育活動に生かされているか、幼児児童生徒の成長や進歩の様子から評価する。
- (2) 研修が継続的、発展的に進められるように、成果や課題を明らかにし、研修組織や計画の改善を図る。

個人研修及び関係機関における研修

1 キャリアステージを意識して、個人研修テーマを設定する。

- (1) 「富山県公立学校の教員等の資質向上のための指標」を参考にし、教員一人一人がそれぞれのキャリアステージで求められる資質能力を高める研修に努める。
- (2) 日々の学習指導や生徒指導、校務分掌について自己評価し、課題を見付け、指導力や専門性を高める個人研修テーマを設定する。

2 研修を通して、実践的な指導力や豊かな人間性を高める。

- (1) 自主的に授業を公開したり参観したりして研修主題の解明に努め、教員としての指導力を高める。
- (2) 各種研究会、講演会等に参加して、教員としての専門性を自ら高める。
- (3) ボランティア活動、社会教育活動等、地域の諸活動に積極的に参加し、地域の人々との交流を通して、人間性や社会性を高める。
- (4) 情報や情報手段を主体的に活用し、社会の変化や教育改革の動向に目を向けながら最新の知識や技能を身に付ける。

3 実践を振り返り、教員としての資質能力の向上に努める。

- (1) 教員間の日常的な意見交換や助言を大切にして、広い視野から自らの研修を振り返り、研修の内容や方法等の改善に努める。
- (2) 指導記録の累積に努め、幼児児童生徒の姿を基に日常の実践を考察し、指導の工夫・改善に生かす。
- (3) 自らのキャリアステージ全体を見通し、その職責、経験、ニーズ等に応じて、効果的・継続的な研修を行うための目安となる「富山県公立学校の教員等の資質向上のための指標」を活用して、これからの時代に求められる資質能力を高めていく。

<活用例>

- ・対話に基づく受講奨励での活用
- ・日々の教育実践の中での目標設定、振り返りとして活用等

[研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励について]

研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励は、教員の主体的・自律的な目標設定やこれに基づくキャリア形成につながることを期待される。教員と校長等の学校管理職とが対話を繰り返す中で、教員が自らの研修ニーズと、自分の強みや弱み、今後伸ばすべき力や学校で果たすべき役割等を踏まえながら、必要な学びを主体的に行っていくことが基本である。学校管理職としては、人材育成の観点から、「教員が今後どの分野の学びを深めるべきか」などについて効果的な指導助言を行うことや、個々の教員の強みや専門性を把握した上で校務分掌を決定するなど学校運営に生かすことが可能になる。

（「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励ガイドライン 富山県版」を参考に作成）

参考資料

○[研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に関するガイドライン](#)

文部科学省
令和4年度



○[研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励ガイドライン 富山県版](#)

富山県教育委員会
令和4年度



○[公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針](#)

文部科学省
令和4年度
令和6年度改訂



○[富山県公立学校の教員等の資質向上のための指標](#)

富山県教育委員会
令和5年度



○[全国学力・学習状況調査報告書 授業アイデア例](#)

国立教育政策研究所
平成21～令和元年度
令和3～令和7年度



○[教員研修ハンドブック](#)

富山県教育委員会



○授業の達人DVD

富山県教育委員会

平成26～令和3年度

1 「教師の学びの姿」の実現

個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現することは、子供たちの学びのみならず、教師の学びにも求められており、子供たちの学びのロールモデルとなることが期待される。

教師の学びの姿

- 「主体的な姿勢」……変化を前向きに受け止め、探究心をもちつつ自律的に学ぶ。
- 「継続的な学び」……求められる知識技能が変わっていくことを意識する。
- 「個別最適な学び」…個性に即して、新たな領域の専門性を身に付けるなど強みを伸ばす。
- 「協働的な学び」……他者との対話や振り返りの機会を確保する。

子供たちの学び（授業観・学習観）の転換とともに、教師自身の学び（研修観）を転換する。教師自らが問いを立てて実践を積み重ね、振り返り、次につなげる探究的な学びをデザインしていく。

教師の学びの姿も、子供たちの学びの相似形

2 教師に共通的に求められる資質

教師に共通的に求められる資質の具体的内容

特別な配慮や支援を必要とする子供への対応

- ・子供の特性等の理解と組織的な対応
- ・学習上・生活上の支援の工夫

個別最適に行うものとしての位置付け

学習指導

- ・学習者中心の授業の創造
- ・子供の興味・関心を引き出す教材研究
- ・他の教師と協働した授業研究
- ・各教科等の専門知識の習得

生徒指導

- ・個に応じた指導
- ・自分らしい生き方を実現するための力の育成
- ・子供たちとの信頼関係の構築
- ・可能性や活躍の場を引き出す集団づくり

ICTや情報・教育データの利活用

- ・授業や校務等でのICTの効果的な活用
- ・情報活用能力を育成する授業実践
- ・教育データの適切な活用

より効果的にするための手段としての位置付け

教職に必要な素養

倫理観、使命感、責任感、教育的愛情、総合的な人間性、コミュニケーション力、想像力、自ら学び続ける意欲及び研究能力 等

※上記に関連して、マネジメント、コミュニケーション（ファシリテーションの作用を含む）、連携協働などが横断的な要素として存在

3 研修体制の整備

日常的な校内研修等の充実

- ・学校（園）における様々な機会や場面を、教師の学びとして位置付け、活用
- ・個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

主体的・自律的な研修の全校的な推進体制

- ・学校（園）が直面する教育課題の組織的な解決
- ・教師が学びに向き合うことができる研修環境の整備

効果的・効率的な実施方法

- ・教師の多忙化に配慮した研修内容の重点化や精選

研修内容が適時見直される仕組みの整備

- ・最新の教育課題に即した研修内容を設定

参考資料

- [「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について](#)
- [～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～](#)
- [公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針](#)

中央教育審議会 令和4年12月
文部科学省 令和7年2月改正

4 研究主題の解明に向けた授業研究後の研修の進め方

研究主題の解明に向け、幼児児童生徒一人一人の具体的な姿（表情や発言等）を基に、授業者の手立てについて、参観者の意見を伝え合うことで協議が深まるようにする。その際、授業を見る視点や参加者全員で協議を深めること、参加者は自分の授業に生かす視点をもつこと等、協議で大切にすることを事前に共通理解しておく。

【研修の進め方（例）】

ICTを活用することで、時間や場所の制約を受けず、幼児児童生徒の姿と手立てを関連付け、協議を深めることができる。また、クラウド上にデータ（授業の様子や指導案、協議内容等）を蓄積しておくことで、いつでも参照することができ、授業改善に取り組みやすい環境を設定することができる。

- (1) 授業前
 - ・指導案等の資料をクラウド上に保存し、疑問点や気付いたこと等を共有しながら教材研究や授業の準備を行う。
- (2) 授業後（協議会前）
 - ・チャット機能や共同編集機能を用いて、指導案や資料、幼児児童生徒の姿（写真や動画、記述等）を共有する。また、参加者が事前に考えを書き込むことで、協議の時間を確保する。
- (3) 協議会
 - ・授業者の意図や本時のねらい、協議の視点に即して、発問や働きかけ、幼児児童生徒の反応、学級の雰囲気等について、成果と課題をデジタル付箋等に書き込み、共通のファイル（デジタルホワイトボード等）に貼る。
 - ・意見が集中する場面や評価が分かれる場面を中心に、授業記録を併用しながら協議し、成果と課題を明らかにする。その際、司会者がファシリテーターとして、授業改善のポイントをキーワードにして意見を整理したり、他の授業でも活用できる手立てとして協議後の実践とつないで考えるよう促したりして協議を深める。
 - ・最後に、参加者が学んだことや明日から取り組みたいこと等を発表し、共有する。

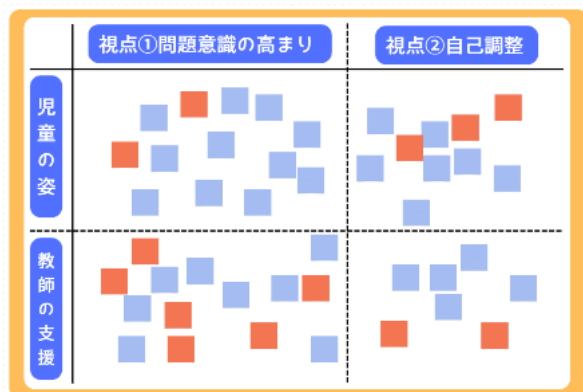
<デジタル付箋を用いた意見の整理例>

① 時系列整理法

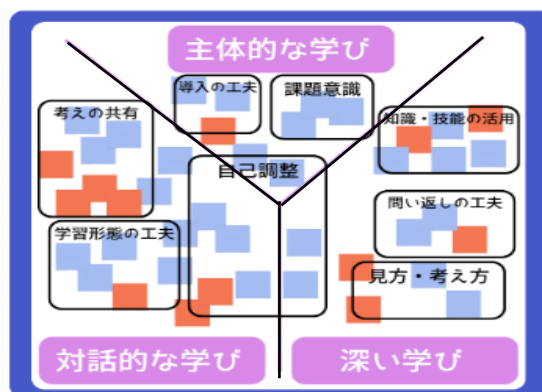
授業における成果と課題を明確にするために、展開に沿って付箋を貼る。縦軸を「児童（幼児、生徒）」と「授業者」、横軸を時系列とし、付箋の多い部分に絞って協議する。

② 思考ツール活用整理法

各学校（園）等の研修主題に基づき、協議の視点を設けて付箋を貼る。



マトリックス表の縦軸を「児童の姿」と「教師の支援」、横軸を「問題意識の高まり」と「自己調整」として整理した付箋を基に、幼児児童生徒の具体的な姿や教師の効果的な支援、視点ごとに授業改善の方法等、協議する。



Yチャートの「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で、構造化して位置付けた付箋を基に協議する。

(4) 協議会后

- ・チャット機能や共同編集機能を用いて、それぞれが協議会での学びを、その後の授業でどのように活かし、授業改善を図ったかなどを共有し、よりよい実践へとつなげる。

参考資料

- [NITS 「研修プランシリーズ」](#)
- 「リーディングDXスクール指定校実践事例・動画」

NITS 独立行政法人教職員支援機構
文部科学省

「富山県公立学校の教員等の 資質向上のための指標」の改訂について

「教育公務員特例法に基づく公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」（以下「指針」）においては、教員等には、倫理観、使命感、責任感、教育的愛情、総合的な人間性、コミュニケーション力、想像力、自ら学び続ける意欲や研究能力等が普遍的な資質として求められ、また、個々の教員等に応じてその資質を向上させる必要があり、自ら必要な学びを主体的にマネジメントしていく姿勢が重要であるとされています。

令和7年2月の指針の改正において、新たに学校における働き方改革の推進を指標に明記することとされました。校長のリーダーシップの下、働き方改革への取組を推進しつつ、多様な専門性を有する質の高い教職員集団を構築し、組織的に諸課題に対応することも求められており、本指標を改訂しました。

本指標については、校長等による対話に基づく受講奨励の際に、教員等が学びの成果や成長の振り返りを行い、今後の課題や展望等をもてるようにすること、日々の教育実践の中で伸ばしたい力や職責に応じて必要とされる力を確認して自身の資質能力を向上させること等を通して、自他のウェルビーイングにつながるよう活用していただきたいと考えます。

主な改訂のポイント

<管理職>

- 「組織運営体制の整備」に、生徒指導や特別支援教育に係るチームでの対応について明記
- 「チーム学校を推進するマネジメント」に「働き方改革（業務改善）」を設け、教職員一人一人が意欲を高め、能力を最大限に発揮できるよう、「学校・教師が担う業務に係る3分類」を踏まえた働き方改革を推進することを明記
- 「教育課程の編成と改善」に、教育課程の柔軟な編成と適正な運用を行うことを明記
- その他、国の指針や「第3期富山県教育大綱」等に基づく資質能力の具体的な内容の見直し

<教諭・養護教諭・栄養教諭>

- 「チーム学校を支えるマネジメント」に、「働き方改革（意識改革）」を追加し、「学校・教師が担う業務に係る3分類」を踏まえた働き方改革を推進することを明記
- 「児童生徒への必要な配慮や支援」に、共生社会の形成に向けた多様な児童生徒への対応が必要であることを明記
- その他、国の指針や「第3期富山県教育大綱」等に基づく資質能力の具体的な内容の見直し

富山県教育の基本理念（「第3期 富山県教育大綱」令和8年3月策定）
生涯にわたる学びを通して、県民一人ひとりのウェルビーイングを高める



教育方針

- 1 一人ひとりの可能性を引き出す質の高い教育の実現
- 2 多様なニーズに対応したきめ細かな教育と支援の展開
- 3 子どもたちの学びを支える教育環境を構築
- 4 社会の持続的発展に向けて学ぶことのできる機会の提供



富山県教育委員会

令和8年3月／発行

管理職の資質向上のための指標

資質能力		役 職	トップリーダーとして目指す姿	
			教 頭	校 長
管理職としての素養	管理職としての職責	<ul style="list-style-type: none"> ・教頭としての自覚と責任の下、校長を補佐し、職務を遂行する。 ・教頭として、向上心を忘れることなく、自ら学び続け、幅広い教養と高い専門性を備え、その成果を職務に反映する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における全教育活動に対し、最高責任者である自覚と責任をもつ。 ・校長として、自己研鑽に励み、幅広い教養と高い専門性を備え、社会状況の変化や学校の教育課題等に対応する。 	
	管理職として求められる能力	<ul style="list-style-type: none"> ・校長と教職員との調整を図り、教職員の親和に努め、校内の秩序を保つ。 ・校長を補佐し、学校内外の情報を収集・整理・分析して学校運営に関する課題を的確に把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の特性を理解して適切な指導を行い、一体感のある組織を構築する。 ・学校内外の情報を収集・整理・分析し、教頭と共有した学校運営に関する課題の解決に向けて的確に判断する。 	
管理職の実践	チーム学校を推進するマネジメント	学校経営方針等の策定・推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針の策定と推進に向け、学校運営上の課題を把握し、校長の意思決定を補佐する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営上の課題を的確に把握し、具体的な学校経営方針を策定して推進に向けて取り組む。
		組織運営体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針を教職員に共有するとともに、組織マネジメントの視点を持ち、教職員を適切に指導したり、地域・各種機関等と連携したりして、学校運営を円滑に進める。 ・児童生徒の内面的な理解に基づく生徒指導や、一人一人の教育的ニーズに応じた合理的配慮の提供等、校内教育支援体制を充実し、教職員に指導・支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育目標を実現するために、組織マネジメントの視点を持ち、具体的な手段・方法を明らかにし、校内の組織体制、地域・各種機関等との連携体制等を整える。 ・児童生徒の内面的な理解に基づく生徒指導や、一人一人の教育的ニーズに応じた合理的配慮の提供等、全校的な教育支援体制を整える。
		保護者や地域・関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域・関係機関の関係者と連絡・調整を図り、信頼関係を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の説明責任を果たすとともに、学校内外の関係者の相互作用により、学校の教育力を最大化していく。
		働き方改革(業務改善)	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の豊かな学びのために、校長を補佐し、教職員一人一人が、その意欲と能力を最大限に発揮できる環境を整える。 ・「学校・教師が担う業務に係る3分類」を踏まえ、校長の方針の下、業務量の管理を適切に行う。 ・教職員の業務の実態を把握し、教育DX化や校長が示す対策等に自ら取り組むとともに、教職員に指導・支援を行い、働き方改革を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の豊かな学びのために、教職員一人一人が、その意欲と能力を最大限に発揮できる環境を整え、働き方改革を推進する。 ・学校運営が適切に行えるよう、「学校・教師が担う業務に係る3分類」を踏まえ、学校業務の整理・調整や、教職員の業務の適正化、勤務時間の管理を行う。 ・家庭や地域の協力を得ながら、外部人材の活用や教育DX化等を通じた業務縮減・効率化に向けた行動目標や具体策を提示する。
	学校教育の管理	教育課程の編成と改善	<ul style="list-style-type: none"> ・校長を補佐し、国の動向や時代の変化に応じた特色ある教育課程を柔軟に編成して、適正な運用とともに評価・改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育目標の実現に向けて、国の動向や時代の変化を踏まえ、カリキュラム・マネジメントを推進する。 ・学校の状況や育てたい子供像を基に、特色ある教育課程を柔軟に編成し、適正な運用とともに評価・改善する。
安全管理 危機管理		<ul style="list-style-type: none"> ・様々なリスクを想定し、日常的な学校安全及び事故防止に向けて情報を収集し、様々な事案への対応を可能とする体制を整える。 ・緊急時には迅速に状況を把握し、校長の指示の下、情報を整理して的確に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なリスクを想定し、収集された情報を活用しながら、日常的な学校安全及び事故防止に向けた体制の構築と対策を講じる。 ・緊急時には迅速に決断し、的確な指示を行い、関係機関と連携して組織的に対応する。 	
教職員の育成	教職員理解 人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員とのコミュニケーションに留意し、教職員の心身の健康状況や働き方を観察して校長と情報共有するとともに、個性や特徴に応じた適切な指導・支援を行う。 ・教職員の資質向上に向け、教職員を適正に評価し、校長に情報提供するとともに、教職員に指導・支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員とのコミュニケーションに留意し、教職員の心身の健康状況や働き方を把握し、個性や特徴に応じた適切な指導・助言を行う。 ・教職員が主体的に研修を進められるよう、教頭からの情報提供や研修履歴を活用し、対話に基づく適切な指導・助言を行うことで、教職員の資質向上を図る。 	
	服務規律の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・教頭として高い倫理観をもち、コンプライアンスを意識して自らを厳しく律し、教職員の手本となる。 ・校長を補佐し、教職員の倫理観を高めるとともに、非違行為の根絶に向けての指導・助言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長として高い倫理観をもち、コンプライアンスを意識して自らを厳しく律し、信頼される学校づくりを進める。 ・校長として、教職員の倫理観を高めるとともに、非違行為の根絶に向けての指導・助言をする。 	

教諭の資質向上のための指標

視点	新規採用時に 目指す姿	伸 長		貢 献
		Step1	Step2	
		実践を繰り返すことを通し、 基礎的な力を身に付ける。	専門性の向上を図り、力を 伸ばす。	
資質能力	教員を志す者として、基礎となる知識・技能等を身に付けている。	実践を繰り返すことを通し、 基礎的な力を身に付ける。	専門性の向上を図り、力を 伸ばす。	協働的な学校づくりに向け、 主体性を発揮しながら貢献する。
教職としての 素養	教育公務員の 職責	<ul style="list-style-type: none"> □教育公務員としての誇りを持ち、使命・責任を自覚している。 □教員としてのライフステージに応じて常に自己研鑽に努め、探究心をもって学び続ける土台ができています。 □富山を愛し、児童生徒への教育的愛情と、教職への誇りと強い情熱をもってしている。 	<ul style="list-style-type: none"> □教育公務員としての誇りを持ち、使命・責任を自覚している。 □教員としてのライフステージに応じて常に自己研鑽に努め、探究心をもって学び続ける土台ができています。 □富山を愛し、児童生徒への教育的愛情と、教職への誇りと強い情熱をもってしている。 	<ul style="list-style-type: none"> □教育全体への信用・信頼に応えることができるよう、自ら服務規律を遵守し、他の教職員にも働きかける。 □学校全体の教育力向上に向け、協働的・組織的に研究等を推進する。
	社会人として 求められる 基礎的な能力	<ul style="list-style-type: none"> □一般常識や人権意識を身に付け、豊かな人間性をもってしている。 □自分の考えを適切に伝え、他人の意見に謙虚に耳を傾けている。 □課題に対し、その解決に向けて粘り強く挑戦している。 	<ul style="list-style-type: none"> □法令を遵守し、日常のサービスを誠実かつ公正に遂行する。 □周囲の状況や相手の思い・考えを汲み取る。 □自分の考えを効果的に伝える。 □教育環境の変化を前向きに受け止め、諸課題の解決に向けて粘り強く挑戦する。 □自らを客観視し、安定した気持ちで仕事ができるように自己啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □円滑なコミュニケーションを通して、互いに協力したり補ったりして良好な人間関係を構築する。 □自他のストレス状態に気付き、軽減するための適切な知識や方法により、対処・助言する。
チーム 学校を 支える マネジ メント	学級経営・ 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> □学校組織及び学級担任の役割と職務内容についての基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> □人間尊重の精神を基盤に、互いのよさを認め合い、児童生徒一人一人が自分らしさを発揮できるように、児童生徒との信頼関係及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> □児童生徒が安心してできる「居場所づくり」や、支え合う「絆づくり」に配慮する。 □特色ある学校づくりに向けて、企画・調整の力を発揮する。 □OJTを推進し、組織としての教育力を高めようとする。 □課題解決に向けて時間や資源を効果的に用い、学校運営の持続的な改善に参画する。 □保護者、地域、関係機関等との連携・協働のネットワークの中軸となり、課題解決について適切な提案や助言を行う。 □自分の働き方を率先して見直すとともに、他の教職員と意識改革が進むよう取り組む。
	保護者、地域等との 連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> □保護者や地域等との連携・協働の重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> □保護者、地域等と積極的に関わり、信頼関係を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> □保護者、地域等との信頼関係を基に連携して教育課題に対応し、解決に向けて取り組む。
	他の教職員との 連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> □教職員集団の一員として自分の役割を理解し、他者と協力して対応しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> □研修や同僚から積極的に学び、校内の課題に対して、学校組織の中で自らの役割を果たそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> □自身や自校の強み・弱みを理解し、他の教職員との連携・協働を通じて校内外の課題を解決しようとする。
	働き方改革 (意識改革)	<ul style="list-style-type: none"> □自身の健康管理に努めるとともに、効率的な時間の使い方を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> □「学校・教師が担う業務に係る3分間」を踏まえた創意工夫による効率的・効果的な業務遂行と自らのタイムマネジメントを行い、働き方改革を推進する。 □心身の健康を保ち、充実したワーク・イン・ライフとウェルビーイングを実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> □「学校・教師が担う業務に係る3分間」を踏まえた創意工夫による効率的・効果的な業務遂行と自らのタイムマネジメントを行い、働き方改革を推進する。 □心身の健康を保ち、充実したワーク・イン・ライフとウェルビーイングを実現する。
学習指導	授業の 設計・展開	<ul style="list-style-type: none"> □カリキュラム・マネジメントについての基礎的な知識を身に付けている。 □学習指導要領を踏まえ、目標を明確にした指導計画の作成についての基礎的な知識を身に付け、実践しようとする。 □各教科等の学習指導に必要な基礎的な知識を身に付けている。 □身に付けている基本的な指導技術を実践に生かそうとしている。 □認知能力・非認知能力についての基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> □カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、指導計画を作成する。 □学習指導要領の趣旨を踏まえ、ねらいに迫るための授業の計画を作成し、学習指導を行う。 □学習指導に関する技術を高め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を展開する。 □専門性や実践経験を生かし、資質能力の育成に向けた授業を展開する。 □児童生徒の疑問や発想を大切に学習者中心の授業づくりに取り組み、指導方法・教材や学習時間等を柔軟に提供・設定する。 □児童生徒が興味・関心に応じ、課題を設定して情報を収集、整理・分析し、まとめ・表現を行うなど、対話を通して問題発見・問題解決を図ることができるようにする。 □児童生徒が自らの学習状況を把握し、学習の進め方について工夫し、調整しながら粘り強く取り組むよう、主体的な学びを支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> □カリキュラム・マネジメントの視点から、自校や地域の特色に応じた指導計画を作成する。 □自校の特色を踏まえ、目指す児童生徒の姿から目標を明確にした授業を設計し、実践する。 □授業改善に向けての提案を行う。 □他の教職員の授業設計や指導上の課題に対して適切な助言及び支援を行う。 □授業における指導と評価の一体化についての課題を明らかにし、自らの知見や実践を自校の授業改善に生かす。 □学校全体の実態から課題を把握し、自校のカリキュラム・マネジメントについて適切な提案や助言を行う。
	授業の 評価・改善	<ul style="list-style-type: none"> □学習評価に関する基礎的な知識を身に付け、実践しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> □児童生徒一人一人の学習状況を的確に把握し、学習指導に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> □適切な学習評価、授業評価を行い、児童生徒の学習状況に応じ、補充的・発展的指導を行う。
	児童生徒 理解	<ul style="list-style-type: none"> □児童生徒一人一人の実態に応じて積極的に児童生徒に向き合おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> □児童生徒のよさや可能性を伸ばすよう、一人一人の特性や心身の状況等の多様性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> □児童生徒を取り巻く環境を的確に捉えて判断し、一人一人に応じた支援を行う。
生徒指導	児童生徒 支援	<ul style="list-style-type: none"> □生徒指導についての基礎的な知識を身に付け、実践しようとする。 □教育相談についての基礎的な知識を身に付け、児童生徒一人一人の思いを共感的に受け止めようとする。 □キャリア教育や進路指導についての基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> □相互扶助的で共感的な人間関係づくりを工夫し、児童生徒自らが自分らしい生き方を実現する力を育成する。 □児童生徒一人一人が自己指導能力を身に付けることができるよう、自己決定の場を提供する。 □児童生徒と信頼関係を構築し、一人一人の可能性やよさを引き出す教育活動を展開する。 □他の教職員や関係機関等と連携し、一人一人を大切にしながら教育活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> □児童生徒理解について、教職員相互で共通理解が図られるよう、組織の環境を整える。 □諸課題の未然防止をねらいとした、意図的・組織的・体系的な教育プログラムを実施する。 □保護者や地域と連携しながら、学校教育活動全体を通じて、児童生徒が自己有用感をもって生活する力を育成する。
	危機管理	<ul style="list-style-type: none"> □危機管理の重要性を理解している。 □情報共有の重要性を理解し、連絡や報告、相談を迅速に行おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> □危機管理意識をもち、安全に配慮した環境の整備を行い、管理職へ確実に「報告・連絡・相談」を行う。 □他の教職員と連携して事故等の未然防止を図り、早期発見、早期対応に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> □学校全体に目を配りながら、平常時の安全確保に努める。 □事故等の未然防止、早期発見、早期対応、再発防止に向けた提案改善等について組織的に推進する。
児童生徒への必要な 配慮や支援	<ul style="list-style-type: none"> □障害のある児童生徒や日本語指導が必要な児童生徒等、特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の多様な背景を理解し、指導についての基礎的な知識を身に付けている。 □特別支援教育に関わる基本的な指導・支援の在り方や合理的配慮についての基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> □全ての児童生徒の可能性を引き出す教育の実現に向け、様々な理由で特別な配慮や支援を必要とする一人一人の個性・特性や教育的ニーズを把握する。 □障害のある児童生徒や日本語指導が必要な児童生徒等の多様な学びを保障するために、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、合理的配慮のもと児童生徒の教育的ニーズに応じて計画的な指導・支援を実践する。 □特に必要がある場合は、「特別的教育課程」を編成し、それに基づく教育活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □様々な理由で特別な配慮や支援を必要とする児童生徒一人一人の学習上・生活上の困難を克服するための支援の工夫を行う。 □学校全体の視点から、多様性を認め、支え合う体制の中で協力し、教育活動や生活環境等の改善を推進する。 □関係機関等との連携を図りながら、組織的・計画的に指導や支援を行う。 	
	ICTや情報・教育 データの利活用	<ul style="list-style-type: none"> □情報管理や個人情報保護の重要性を理解している。 □学校におけるICTの活用の意義や情報モラルを正しく理解し、ICT機器を適切に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> □学校が管理する情報や児童生徒等に関する個人情報等を適正に取り扱う。 □児童生徒の情報活用能力や情報モラルを育成するための授業実践等を行う。 □授業や校務等におけるICTの活用方法を検討し、効果的に活用する。 □児童生徒の学習の改善を図るため、教育データを適切に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ICT活用の現状や情報・教育データを俯瞰的に捉え、課題を明確にし、解決に向けて働きかける。 □ICTや情報・教育データの利活用について、他の教職員に対し適切な助言及び支援を行う。

養護教諭の資質向上のための指標

視 点	新規採用時に 目指す姿	伸 長		貢 献	
		Step 1	Step 2		
資質能力	教員を志す者として、基礎となる知識・技能等を身に付けている。	実践を繰り返すことを通し、基礎的な力を身に付ける。	専門性の向上を図り、力を伸ばす。	協働的な学校づくりに向け、主体性を発揮しながら貢献する。	
教職としての素養	教育公務員の職責	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育の意義や教員の社会的役割・服務等を理解している。 探究心をもって学び続ける土台ができています。 児童生徒への教育的愛情と、教職への使命感や情熱をもってしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育公務員としての誇りを持ち、使命・責任を自覚している。 教員としてのライフステージに応じて常に自己研鑽に努め、探究心をもちつつ自律的かつ継続的に学び続ける。 富山を愛し、児童生徒への教育的愛情と、教職への誇りと強い情熱をもってしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育全体への信用・信頼に込めることができるよう、自ら服務規律を遵守し、他の教職員にも働きかける。 学校全体の教育力向上に向け、協働的・組織的に研究等を推進する。 	
	社会人として求められる基礎的な能力	<ul style="list-style-type: none"> 一般常識や人権意識を身に付け、豊かな人間性をもっている。 自分の考えを適切に伝え、他人の意見に謙虚に耳を傾けている。 課題に対し、その解決に向けて粘り強く挑戦している。 	<ul style="list-style-type: none"> 法令を遵守し、日常の服務を誠実かつ公正に遂行する。 周囲の状況や相手の思い・考えを汲み取る。 自分の考えを効果的に伝える。 教育環境の変化を前向きに受け止め、諸課題の解決に向けて粘り強く挑戦する。 自らを客観視し、安定した気持ちで仕事ができるよう自己啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 円滑なコミュニケーションを通して、互いに協力したり補ったりして良好な人間関係を構築する。 自他のストレス状態に付き、軽減するための適切な知識や方法により、対処・助言する。 	
チーム学校を支えるマネジメント	保健室経営・学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 養護教諭の役割と職務内容についての基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標を理解し、保健室経営計画を立案する。 計画的・組織的に保健室経営を推進するよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標の実現に向けて保健室経営を工夫して実践する。 保健室経営計画を基に、保健管理、保健教育、健康相談、保健組織活動等について実践、評価し、改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健活動の推進に中心的な役割を果たす。 特色ある学校づくりに向けて、企画・調整の力を発揮する。 OJTを推進し、組織としての教育力を高めようとする。 保健室経営の視点から、学校教育目標を実現するための具体的な方策を提案し、学校運営に参画する。 保護者、地域、関係機関等との連携・協働のネットワークの中軸となり、課題解決について適切な提案や助言を行う。 自分の働き方を率先して見直すとともに、他の教職員と意識改革が進むよう取り組む。
	保護者、地域等との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域等との連携・協力の重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域等と積極的に関わり、信頼関係をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域等との信頼関係を基に連携して教育課題に対応し、解決に向けて取り組む。 	
	他の教職員との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> 教職員集団の一員として自分の役割を理解し、他者と協力して対応しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修や同僚から積極的に学び、校内の課題に対して、学校組織の中で自らの役割を果たそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身や自校の強み・弱みを理解し、他の教職員との連携・協働を通じて校内外の課題を解決しようとする。 	
	働き方改革(意識改革)	<ul style="list-style-type: none"> 自身の健康管理に努めるとともに、効率的な時間の使い方を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校・教師が担う業務に係る3分類」を踏まえた創意工夫による効率的・効果的な業務遂行と自らのタイムマネジメントを行い、働き方改革を推進する。 心身の健康を保ち、充実したワーク・イン・ライフとウェルビーイングを実現する。 		
専門領域	保健教育	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領を踏まえ、保健教育における養護教諭の役割や児童生徒の実態に応じた保健教育の必要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健教育における養護教諭の役割を理解した上で、学級担任等と連携し、養護教諭の専門性を生かして積極的に参画し、実践する。 他の教諭等が授業等で使用できる教材を作成・提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領を基に、児童生徒の実態に即した保健教育を実践し、評価、改善しながら効果的に推進する。 	
	保健管理	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健安全法を基に、健康診断や健康観察、健康相談及び保健指導、救急処置等の保健管理の基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の発達の段階に応じてよくみられる心身の疾病や障害を理解し、健康課題について対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健情報を総合的に評価し、把握した健康課題の解決に向けて、組織的に対応しながら、保健管理の充実を図る。 	
	健康相談及び保健指導	<ul style="list-style-type: none"> 健康相談及び保健指導の位置付けを理解し、心身の発達の段階における健康課題に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の心身の発達の段階の課題や現代的な健康課題との関連を踏まえた健康相談及び保健指導を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 心身の健康課題を総合的に捉え、校内支援体制の充実に努めるとともに、保護者や関係機関等と連携する。 	
	児童生徒理解	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人一人の実態に応じて積極的に児童生徒に向き合おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒のよさや可能性を伸ばすよう、一人一人の特性や心身の状況等の多様性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒を取り巻く環境を的確に捉えて判断し、一人一人に応じた支援を行う。 	
生徒指導	児童生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導についての基礎的な知識を身に付け、実践しようとする。 教育相談についての基礎的な知識を身に付け、児童生徒一人一人の思いを共感的に受け止めようとする。 キャリア教育や進路指導についての基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 相互扶助的で共感的な人間関係づくりを工夫し、児童生徒自らが自分らしい生き方を実現する力を育成する。 児童生徒一人一人が自己指導能力を身に付けることができるよう、自己決定の場を提供する。 児童生徒と信頼関係を構築して、一人一人の可能性やよさを引き出す教育活動を展開する。 児童生徒の基本的な人権に十分配慮し、一人一人を大切にしたい教育活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の課題解決への指導・教育相談を行う。 他の教職員や関係機関等と連携し、個に応じた指導・教育相談及び集団指導を実践する。 	
	危機管理	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健における危機管理意識をもっている。 情報共有の重要性を理解し、連絡や報告、相談を迅速に行おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理意識をもち、安全に配慮した環境の整備を行い、管理職へ確実に「報告・連絡・相談」を行う。 他の教職員と連携して事故等の未然防止を図り、早期発見、早期対応に努める。 様々なケースを想定した、他の教職員との役割分担、組織的な救急体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 救急処置をはじめとした緊急事態への対応に係る校内研修を継続的に実施する。 	
児童生徒への必要な配慮や支援	<ul style="list-style-type: none"> 障害のある児童生徒や日本語指導が必要な児童生徒等、特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の多様な背景を理解し、指導についての基礎的な知識を身に付けている。 特別支援教育に関わる基本的な指導・支援の在り方や合理的配慮、医療的ケア実施に関わる環境整備等についての基礎的な知識・技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての児童生徒の可能性を引き出す教育の実現に向け、様々な理由で特別な配慮や支援を必要とする一人一人の個性・特性や教育的ニーズを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な理由で特別な配慮や支援を必要とする児童生徒一人一人の学習上・生活上の困難を克服するため、専門的な知識に基づき支援の工夫を行う。 		
ICTや情報・教育データの利活用	<ul style="list-style-type: none"> 情報管理や個人情報保護の重要性を理解している。 学校におけるICTの活用意義や情報モラルを正しく理解し、ICT機器を適切に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校が管理する情報や児童生徒等に関する個人情報等を適正に取り扱う。 児童生徒の健康への影響を考慮し、ICTとの上手な付き合い方を身に付けるための授業実践等を行う。 授業や校務等におけるICTの活用方法を検討し、効果的に活用する。 児童生徒の健康の改善を図るため、教育データを適切に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用の現状や情報・教育データを俯瞰的に捉え、課題を明確にし、解決に向けて働きかける。 		

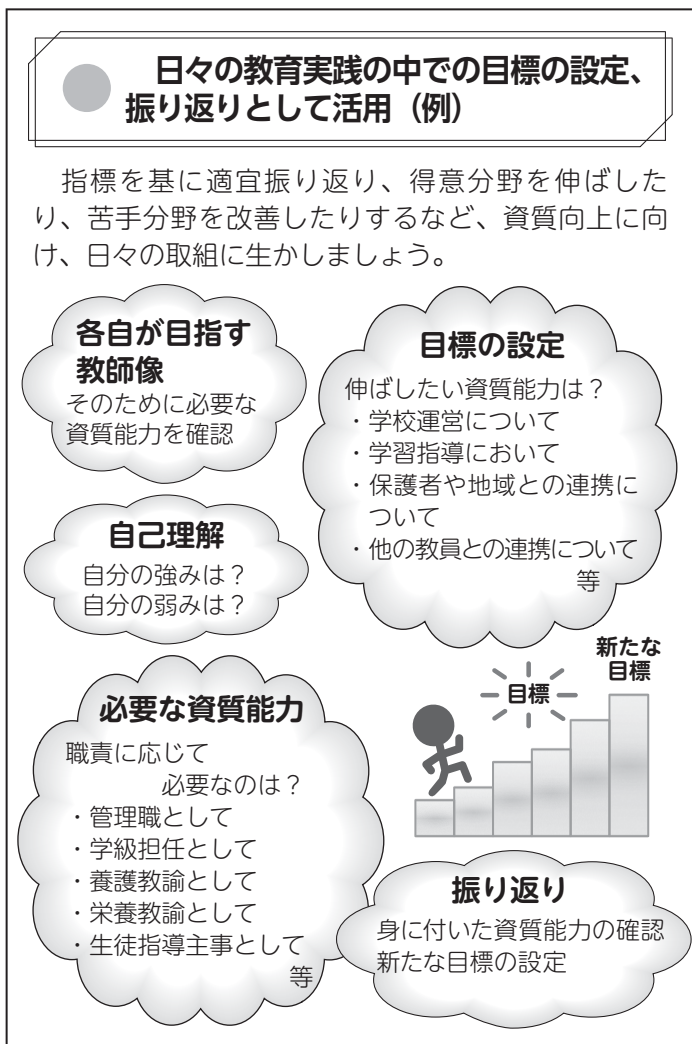
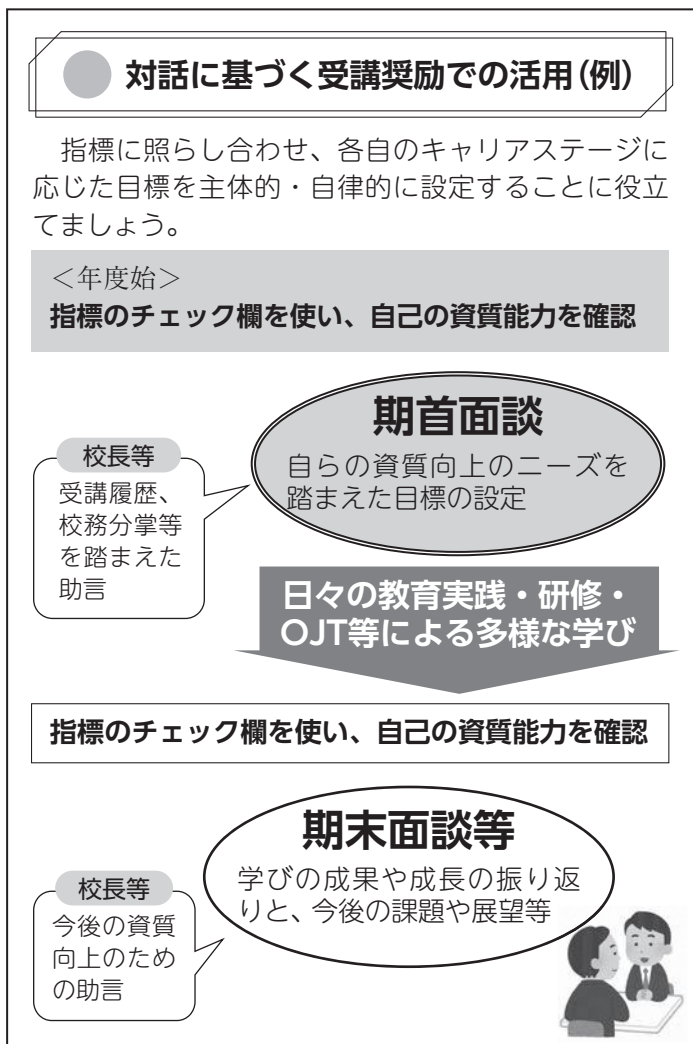
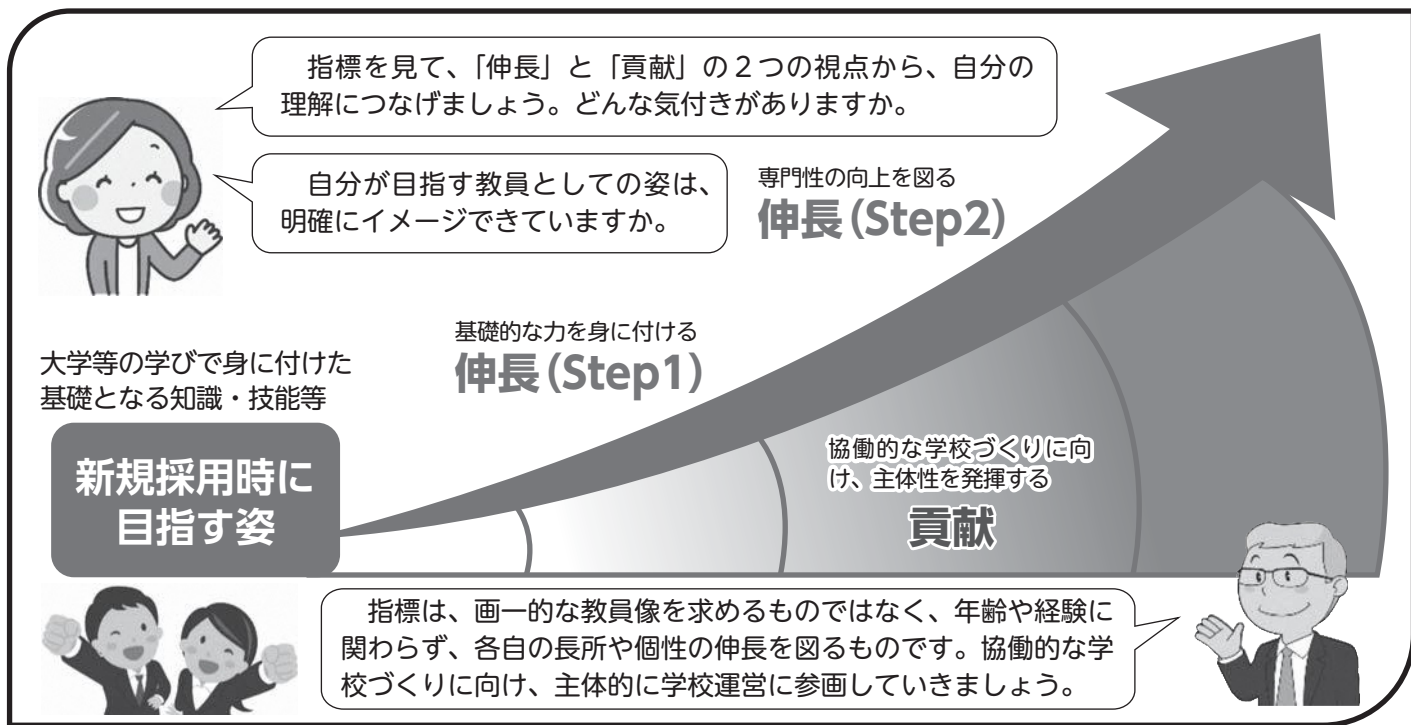
栄養教諭の資質向上のための指標

※学校栄養職員も準ずる

視 点	新規採用時に 目指す姿	伸 長		貢 献	
		Step 1	Step 2		
資質能力	教員を志す者として、基礎となる知識・技能等を身に付けている。	実践を繰り返すことを通し、基礎的な力を身に付ける。	専門性の向上を図り、力を伸ばす。	協働的な学校づくりに向け、主体性を発揮しながら貢献する。	
教職としての素養	教育公務員の職責	<ul style="list-style-type: none"> 教育公務員としての誇りをもち、使命・責任を自覚している。 教員としてのライフステージに応じて常に自己研鑽に努め、探究心をもちつつ自律的かつ継続的に学び続ける。 富山を愛し、児童生徒への教育的愛情と、教職への誇りと強い情熱をもっている。 		<ul style="list-style-type: none"> 教育全体への信用・信頼に込めることができるよう、自ら服務規律を遵守し、他の教職員にも働きかける。 学校全体の教育力向上に向け、協働的・組織的に研究等を推進する。 	
	社会人として求められる基礎的な能力	<ul style="list-style-type: none"> 一般常識や人権意識を身に付け、豊かな人間性をもっている。 自分の考えを適切に伝え、他人の意見に謙虚に耳を傾けている。 課題に対し、その解決に向けて粘り強く挑戦している。 	<ul style="list-style-type: none"> 法令を遵守し、日常のサービスを誠実かつ公正に遂行する。 周囲の状況や相手の思い・考えを汲み取る。 自分の考えを効果的に伝える。 教育環境の変化を前向きに受け止め、諸課題の解決に向けて粘り強く挑戦する。 自らを客観視し、安定した気持ちで仕事ができるように自己啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 円滑なコミュニケーションを通し、互いに協力したり補ったりして良好な人間関係を構築する。 自他のストレス状態に気づき、軽減するための適切な知識や方法により、対処・助言する。 	
チーム学校を支えるマネジメント	食育推進・学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭の役割と職務内容についての基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標を理解し、食育の推進に向けた方針を立て、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 食育の推進に積極的にに関わり、学校教育目標の実現に向けて工夫・改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 特色ある学校づくりに向け、企画・調整の力を発揮する。 OJTを推進し、組織としての教育力を高めようとしている。 課題を的確に把握して組織的な対応策を提案し、解決に向けて学校運営に参画する。 保護者、地域、関係機関等との連携・協働のネットワークの中軸となり、課題解決について適切な提案や助言を行う。 自分の働き方を率先して見直すとともに、他の教職員と意識改革が進むよう取り組む。
	保護者、地域等との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域等との連携・協力の重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域等と積極的に関わり、信頼関係をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域等との信頼関係を基に連携して教育課題に対応し、解決に向けて取り組む。 	
	他の教職員との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> 教職員集団の一員として自分の役割を理解し、他者と協力して対応しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修や同僚から積極的に学び、校内の課題に対して、学校組織の中で自らの役割を果たそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身や自校の強み・弱みを理解し、他の教職員との連携・協働を通じて校内外の課題を解決しようとする。 	
	働き方改革（意識改革）	<ul style="list-style-type: none"> 自身の健康管理に努めるとともに、効率的な時間の使い方を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校・教師が担う業務に係る3分類」を踏まえた創意工夫による効率的・効果的な業務遂行と自らのタイムマネジメントを行い、働き方改革を推進する。 心身の健康を保ち、充実したワーク・イン・ライフとウェルビーイングを実現する。 		
専門領域	食に関する指導 (給食の時間 教科等の指導 個別的な 相談指導)	<ul style="list-style-type: none"> 食に関する指導内容やPDC Aサイクルに基づく指導の進め方についての基礎的な知識を身に付けている。 学校給食を「生きた教材」とする意義を理解している。 健康課題のある児童生徒等に対する個別的な相談指導への対応等の重要性について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 食に関する指導の全体計画の作成に参画するとともに、各学年・学級の食に関する課題を把握し、給食の時間や教科等における食に関する指導を行う。 学級担任等が給食指導の際に活用できる共通的な資料の作成・提供等を行う。 食に関する健康課題を有する児童生徒に、家庭、学級担任等や養護教諭、必要に応じて学校医等と連携を図りながら指導・助言を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年・学級の食に関する課題を把握し、専門的な知見から発達の段階に応じた食に関する指導を行う。 学級担任等と連携し、学校教育活動全体で年間を通じた計画的・継続的な指導を行う。 食に関する健康課題を有する児童生徒の情報を教職員に適切に伝え、共通理解の下、組織的に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 食に関する指導の中心的役割を担い、自校や地域の特色を踏まえ、目標を明確にして指導・評価し、指導内容の工夫・改善を図る。 食に関する指導について適切に評価し、その成果を可視化するなど学校全体で推進する。 学校給食における献立作成や、調理・配食及び施設設備に関して、地域（市町村）において指導的役割を果たす。 食に関する健康課題への予防や対応策について研修を進めるとともに、地域（市町村）に向け情報発信するなど、関係者の理解と意識の向上に努める。
	栄養管理	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食実施基準に基づいた献立作成についての基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食実施基準や食品構成に配慮した献立を作成し、食に関する指導と学校給食の管理を一体化して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食実施基準に基づき、児童生徒の実態や地域の特色を生かした献立を作成し、食に関する指導と学校給食の管理を推進する。 	
	児童生徒理解	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人一人の実態に応じて積極的に児童生徒に向き合おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒のよさや可能性を伸ばすよう、一人一人の特性や心身の状況等の多様性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒を取り巻く環境を的確に捉えて判断し、一人一人に応じた支援を行う。 	
生徒指導	児童生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導についての基礎的な知識を身に付け、実践しようとする。 教育相談についての基礎的な知識を身に付け、児童生徒一人一人の思いを共感的に受け止めようとする。 キャリア教育や進路指導についての基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の基本的な人権に十分配慮し、一人一人を大切にしながら教育活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の教職員や関係機関等と連携し、個に応じた指導・教育相談及び集団指導を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒理解について、教職員相互で共通理解が図られるよう、組織の環境を整える。 保護者や地域と連携しながら、学校教育活動全体を通じて、児童生徒が自己有用感をもって生活する力を育成する。
	危機管理・衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食における危機管理意識をもっている。 情報共有の重要性を理解し、連絡や報告、相談を迅速に行おうとする。 学校給食衛生管理基準を理解し、基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理意識をもち、安全に配慮した環境の整備を行い、管理職へ確実に「報告・連絡・相談」を行う。 他の教職員と連携して事故等の未然防止を図り、早期発見、早期対応に努める。 学校給食衛生管理基準に基づいた作業等について、調理従事者等に助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 衛生管理責任者として、調理員との業務内容の整理・分担や業務の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体に目を配りながら、平常時の安全確保に努める。 事故等の未然防止、早期発見、早期対応、再発防止に向けた提案・改善等について組織的に推進する。 学校給食における衛生管理等に関して地域（市町村）の指導的役割を果たす。
児童生徒への必要な配慮や支援	<ul style="list-style-type: none"> 障害のある児童生徒や日本語指導が必要な児童生徒等、特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の多様な背景を理解し、指導についての基礎的な知識を身に付けている。 特別支援教育に関わる基本的な指導・支援の在り方や合理的配慮についての基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての児童生徒の可能性を引き出す教育の実現に向け、様々な理由で特別な配慮や支援を必要とする一人一人の個性・特性や教育的ニーズを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な理由で特別な配慮や支援を必要とする児童生徒一人一人の学習上・生活上の困難を克服するため、専門的な知見に基づく支援の工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体の視点から、多様性を認め、支え合う体制の中で協力し、教育活動や生活環境等の改善を推進する。 関係機関等との連携を図りながら、組織的・計画的に指導や支援を行う。 	
ICTや情報・教育データの活用	<ul style="list-style-type: none"> 情報管理や個人情報保護の重要性を理解している。 学校におけるICTの活用の意義や情報モラルを正しく理解し、ICT機器を適切に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校が管理する情報や児童生徒等に関する個人情報等を適正に取り扱う。 授業や校務等におけるICTの活用方法を検討し、効果的に活用する。 児童生徒のよりよい食習慣の形成のため、教育データを適切に活用する。 		<ul style="list-style-type: none"> ICT活用の現状や情報・教育データを俯瞰的に捉え、課題を明確にし、解決に向けて働きかける。 	

/// 指標活用ガイド ～自ら学び続ける教員の成長のために～ ///

「富山県公立学校の教員等の資質向上のための指標」は、本県教員が主体的に資質能力の向上を図る際、自らのキャリアステージ全体を見通し、その職責、経験、ニーズ等に応じて、効果的・継続的な研修を行うための目安となるものです。本指標を活用するとともに、本県の「教職員研修と指標との関連表」を参考に研修に取り組み、これからの時代に求められる資質能力を高めていきましょう。



※ 指標の活用については、学校や各自の実情にあわせ、よりよい方法を検討しましょう。

